「火の用心」の都市（まち）はままつ

浜松市消防長　**牧 田　正 稔**

本市は、東に天竜川、西に浜名湖、南に遠州灘、北には南アルプスの南端と、四方を豊かな自然に囲まれ、温暖な気候とあいまって、古くは「波萬萬都（はままつ）」と呼ばれ、多くの人が行き交い生活の営まれる地でありました。

皆さんがよくご存知の徳川家康にも関係が深く、青年期の17年間を「浜松城」（別名「出世城」……歴代城主がその後老中に出世）にて過しております。

さて、この家康のエピソードとして、武田信玄に戦いを挑んだ「三方ヶ原の合戦」があります。家康軍が大敗、敗走の途中に腹が減り寄った茶屋の餅代も払わず、一目散に浜松城に逃げ帰ったことから現在も当地に「小豆餅」「銭取」の地名が残っております。この敗北を教訓に猛省した家康は、天下人の道を突き進んでいくことになります。また、火災予防の合言葉として誰もが耳にしたことのある「火の用心」も、天正３年の「長篠の合戦」において、出陣していた家康の家臣、本多作左衛門重次が陣中から妻子に送った「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」の簡潔、明瞭な手紙に由来しております。

このように徳川家康と関わりが深く城下町として栄えた本市は、明治４年の廃藩置県により、浜松県となり遠州一円の行政の中心地として近代都市への歩みを始めます。明治９年には浜松県と静岡県の統廃合により静岡県浜松町が、その後の明治44年の市制施行によって浜松市が誕生しました。

昭和期に入ると、繊維、楽器、オートバイの三大産業を基軸に産業都市として順調に成長を遂げ、平成17年７月の本市を含む12市町村の合併を経て、平成19年４月には政令指定都市として新たなスタートを切りました。

平成23年度は、７月に市制100周年を迎え、世界に誇る多くの起業家や産業技術を創出する原動力となった本市の進取の気性「やらまいかスピリッツ！」を未来に繋げることをコンセプトに、様々な記念事業を市民、本市キャラクター「出世大名家康くん」と共に行いました。

本市消防局につきましては、職員892名と消防ヘリコプター「はまかぜ」１機、消防車両等144台の配備により、「災害に強い都市（まち）づくり」を基本政策に掲げ、80万市民の安全・安心を日夜、守っております。

東日本大震災では、発災直後から緊急消防援助隊として岩手県に指揮支援隊と航空隊、福島県には静岡県隊として加わり、また原発事故対応として放射能除染の指導に特別高度救助隊を派遣しました。改めて、被災地の一日も早い復興を職員一同より願っております。

本市の地域連携としては、消防ヘリコプターによる、ドクターヘリの補完運行に関する協定や愛知県東三河地域、静岡県遠州地域、長野県南信州地域の３県３地域からなる「三遠南信地域」において県境を越える航空消防応援協定を全国に先駆けて締結しております。

今後におきましては、懸念される東海地震、特に津波に対する消防活動の見直しを図るなど市民の安全確保に万全を尽くすとともに、本年開催の「全国消防長会財政委員会」などの事業についても関係各位、団体のご協力、ご指導を賜りながら政令市消防として全力を傾注して取り組んで参ります。